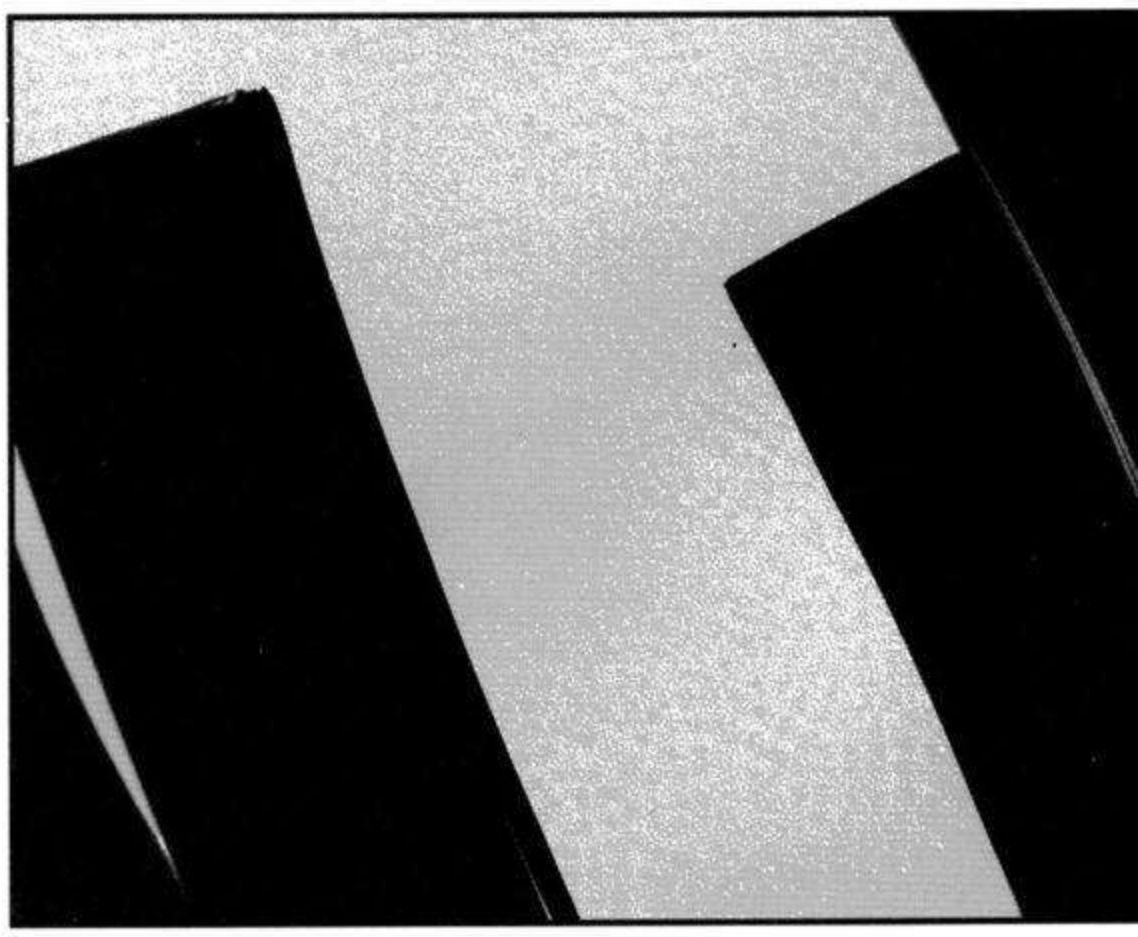
ナンシー・リー
フロムウスイホン
for adult only

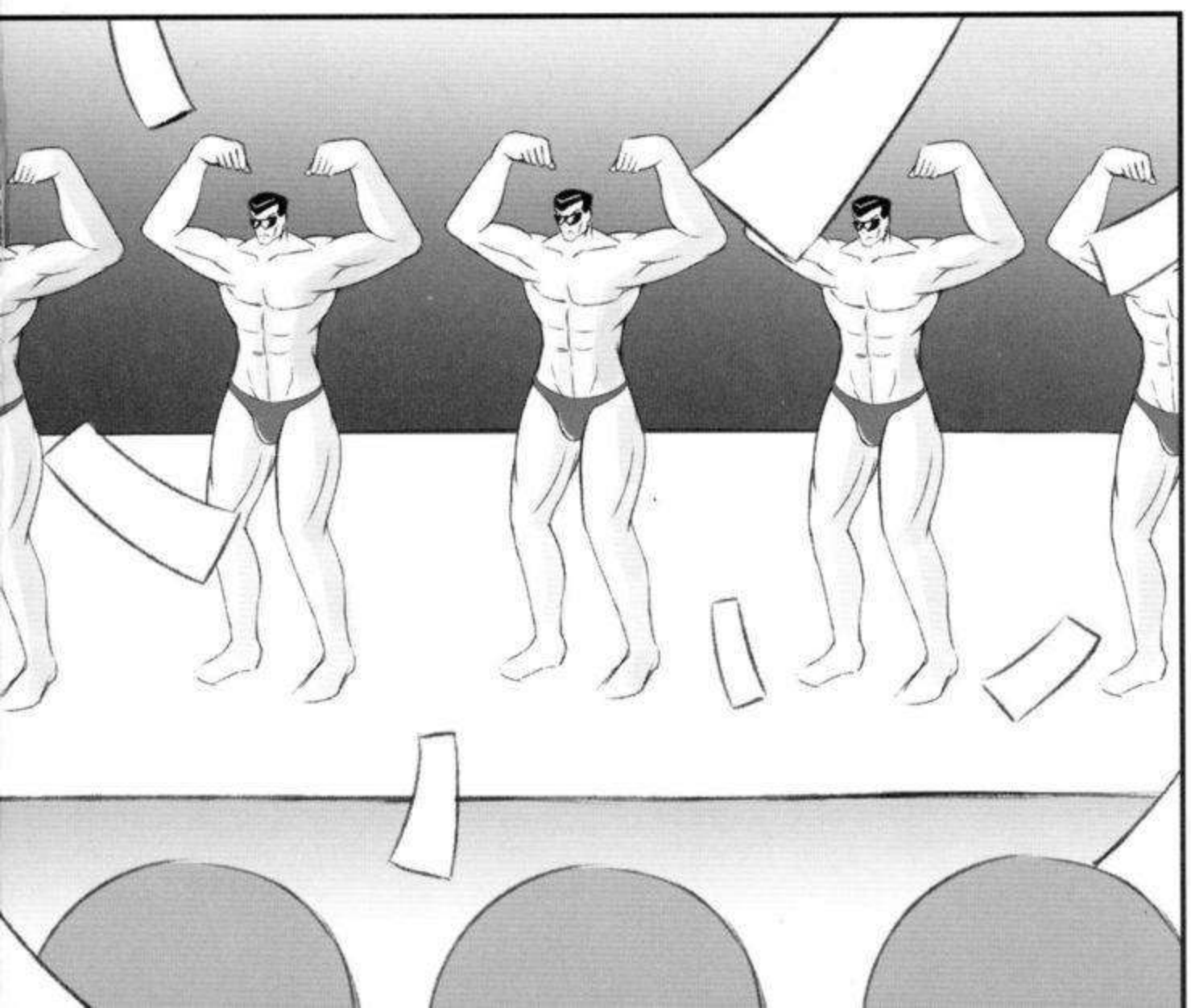
繁華街ネオカブキチョ。そのニチョーム・ストリートにあるバー『イケメンパラダイス』。週末そこには、大手大企業重役の妻、ザイバツ御曹司のアイジンなど、富裕層の中年女性が数多く集う。



キンギンパールに身を包み、夜の歓楽街にその身と余りある
カネを投じる彼女達は別名『キンツマ』と呼ばれる。
今宵もその薄暗い店内、ポールダンスを踊るクローンダンサー
達の頭上には『キンツマ』達の撒いた札束が舞う。

その店の奥にあるVIPルーム。そこでは一人のうら若きアイジンが、
クローンダンショーと甘い時間を過ごしている……筈だったのだが。
「やはり……この店はソウカイ・シンジケートの経営する闇店舗。
顧客は皆、敵対する企業の妻達」男娼もとらず、カーテンの隙間から
様子を伺う金髪の女。

「ソウカイヤは彼女達をたぶらかし、店に多額のカネを落とさせている
……敵対するザイバツの資金をこんな形で奪うなんて」着飾ったドレス
の変装を脱ぎ捨て、黒のレザースーツを露わにしたコーカソイドの金髪
美人。



胸元から取り出した小型カメラで店内の様子を撮影するナンシー・リー。そのバストは豊満である。「しかしこのお店暑いわね……なんか頭がぼーっとして……」その頭上に、不気味な影が現れる！

「オレ様の汗には強力な淫眠作用のフェロモンが含まれててなぁ！　その発汗を促すための室温設定！　そしてココはオレの王国という訳だ！　ハハハッ！　ヨウコソ、ナンシー=サン！」

そう言って、張り付いていた天井から彼女の前に降り立ったのはソウカイ・シンジゲートのクローンダンショー。しかしその額には、量産型の３倍は強そうな角がそびえ立っている！

「お前は……！」「オレ様はこの店を仕切るエース専用タイプのクローン、suguni yoku aegaseru ace 略してシャークロ！　悪いがネーチャン、この店のカラクリに気づいたからにはタダじゃ帰れないぜ！」

「イヤーッ！」「あぁぁッ！」ナンシーはシャーダンの放ったワイヤーに、一瞬にして全身を締め上げられてしまった。「くっ……あっ……ほどけないっ」それがナンシー・リーの、長い夜のはじまりであった。

「くッ……はぁッ……」

「ククッ……もがけば
もがく程、その
ワイヤーは全身に
喰い込むぜェ？
ほらそのデカい
パイオツにも、
敏感なオマタにもなぁッ」

「ノーーーウッ！」

「んー？　苦しいか？　ジャーナリスト、ナンシー・リーその胸のデカさは有名だが、尻の方も丸々として……
随分豊満なデカケツじゃねーか」
「クッ……ドコを見てるのよっ、この変態！」
「あ？　可愛いらしい童顔を紅潮させて何言ってやがる。そのエロい格好といい、オマエ本当はこういうの好き
なんじゃあないのか？　いかにも“私を捕まえて、イヤらしいお仕置きたっぷりして下さい”って感じが
全身から滲み出てるぜ？」
「そっ、そんなコトあるわけッ……」
「ハハッ、丸出しのプリケツいやらしくクネらせながら言う台詞じゃねぇなぁ……素直になれよ、オラッ！」

『バチンッ！！』

「あぁーーーーッ！」
「お？　ケツ思い切り叩かれたってのに、随分甘い鳴き声あげるじゃねーかw　オラッ！」

「あんッ！」
「オラッ！」
「ノーーウッ！」
「オラぁッ！！」
「あぁぁぁぁッ！」
「白いプリケツ真っ赤に
腫らして、トロンとした目
してんじゃねぇかw
こりゃオレのフェロモンの
せいだけじゃなく、
根っからの癖だな？
ククッ、可愛らしい顔して、
この変態ドM娘が……
オラッ！　オラッ！
オラぁーッ！！」

「あッ！　ノウッ！
イヤぁぁぁぁーッ♪」

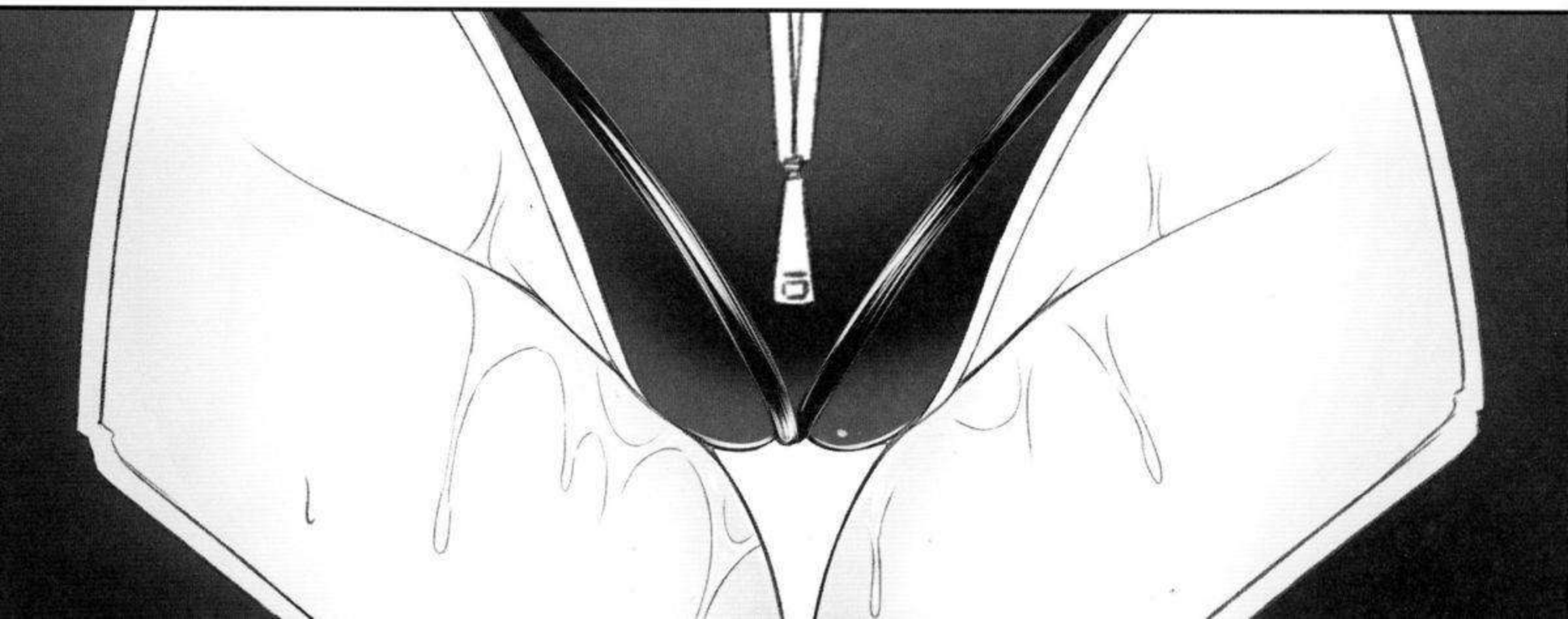
「オラこのッ！
尻丸出しでッ！
誘ってんだろッ！』
「んあッ！　ハウッ！
ハーーウッ！！』

「Noじゃねーだろッ！　デカケツ震わせて悦びやがってッ。ほら全身クネらせるからワイヤーがヤらしいカラダにドンドン喰い込んでってるじゃねーかw　オラッ！」

「あうッ！　だってっ！　カラダが勝手にッ！　ビクンビクンってしちゃうからッ……あッ！！」
「うおッ！　ほら暴れっから豊満バストがプルンって揺れて……デカパイがポロリしちまったじゃねぇかw」
「いやぁッ！　見ちゃダメっ！」
「おー、薄いピンクで10代の生娘みてーな可愛らしい乳首してんじゃねーかw」
「あッそんな近くで見ないでっ！　あんっ♪　鼻息あたってっ……あぁっ♪　息吹きかけちゃダメェっッ！」
「あぁん？　コレが良いのかよホラッ！　フーッ！　フーーーッ！」
「おぅッ♪　のおおおウ♪」
「カラダびくびくしてんぞw　おー！　乳首勃ってきたじゃねーかw　ホラもっと気持ち良くしてやるよッ！　フーーーッ！」
「あッ♪　イヤッ♪　あぁぁぁぁーーーッ♪」

「カラダのけ反らせて悦びやがってw　そんな暴れたら下の股縄もずいぶん喰い込んでんじゃねーか？どれどれ……」
「ちょっ、そんなトコに顔近づけないでーー」
「って、すっかり濡れてんじゃねーかお前！w」
「そんなっ、違っ……」

「違わねーよ、マン汁染み出てきてんじゃねーか！　……クンクン……くっせ！　エロい匂いさせやがってw」
「あぁッ！　そんなトコの匂い嗅いだらッ……ヤぁだぁッ……」

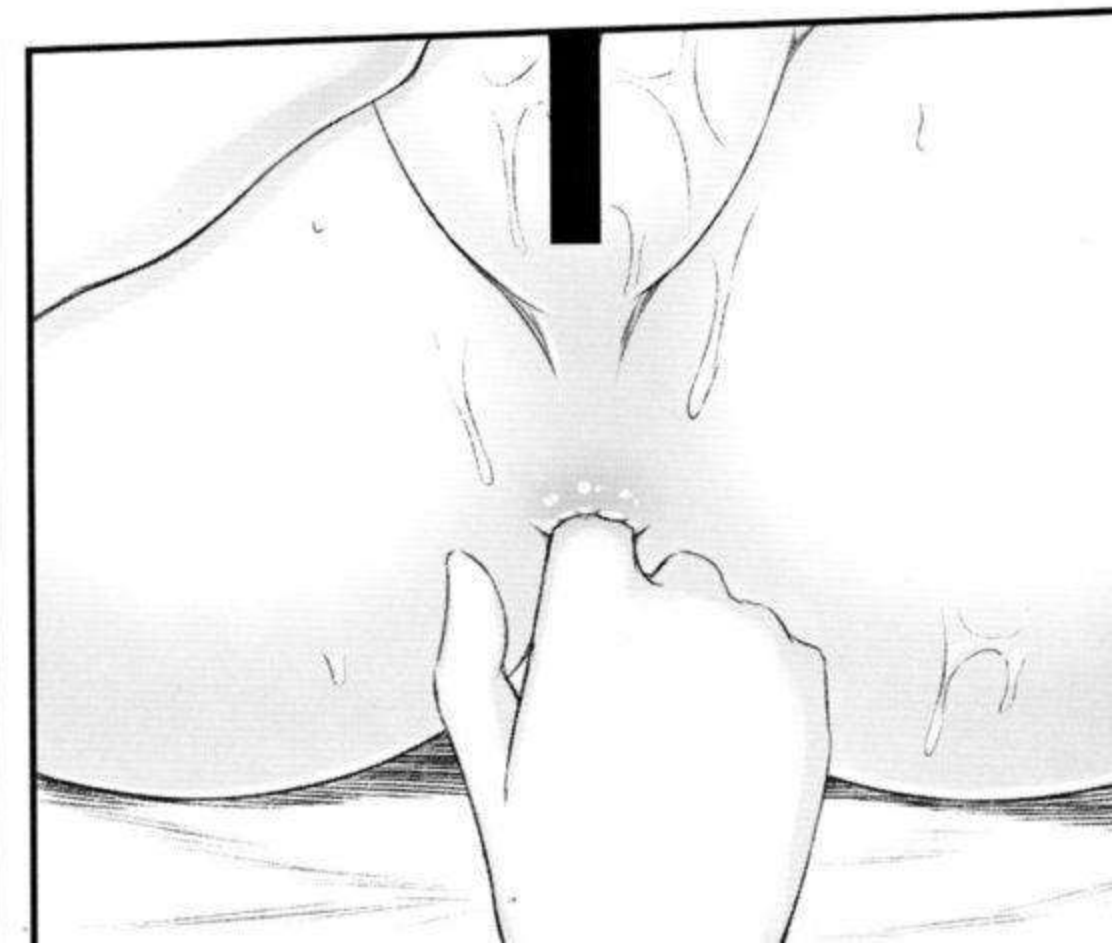


「ほら、ワイヤーも服も引っぺがして、どんだけ濡れてるか確認してやるよ」
「いやっ！　あッ！　のおおおおう……」

「バイオ強化されたオレ様の筋肉に、力じゃ勝てねぇからおとなしく……って、すっかり腰くだけで、歯向かう気力もねーじゃねーかw　ほら！素っ裸に剥かれた気分はどうだ？」
「あぁッ……うそっ……こんなカッコ……」
「ハハッ　明るいトコロでデカパイも大事なオマンコも恥ずかしいトコ全部晒しちまったなオイw　」

「んっ……恥ずかしッ……こんな……誰にも見せたコトっ・無いのにっ……」

「さすがガイジンっだけあって、マン毛全剃りしてんなw　ビラもハミ出てなくて割れ目もキレイ……って、お前なに尻穴ヒクつかせてんだ？w　つかアナルこんもり脱肛させて……お前、尻穴イジるの好きだろw」
「えっ！？　いやっ・なんで！？」
「アタリかよw　ほら、入口に指当てただけで……」
「あぁッ……はぁんッ♪」
「すんなり指飲み込んでくじゃねーかw　普段からイタズラして、尻穴ほぐしてっからだぞ、コレw」
「あっ・あっ・ホジったらダメっ♪……おんッ！　指曲げてグリグリはもっとダメぇぇぇッ♪」
「ダメって言いながら喘ぎ声出すなよw　ゆーっくり出し入れしてやるよホラ……気持ちイイんだろコレw　ほら腸液でアナル濡れてきたぞ？　ケツ穴ニュルニュルだなw　ほら引っ張ると"行かないで"って肛門吸い付いて来やがるw」
「ハァハァっ♪　はぁぁ〜〜〜ッ……あぁぁぁんッ♪」
「ヤらしいアナルほじりながら、どピンクまんこも開いて見てやるよホラ……ん？　真ん中で処女膜ヒクヒクいってんなw　やっぱお前バージンだったのかw」
「あッ・いやッ！　見ないでェッ！！」
「ふはッ、イジってもいねーのにマン汁が糸引いてんじゃねーかw　よし、じゃ今日は可愛いナンシー=サンの卒業式してやろーじゃねーか……」
「えっ！？」



「あッ・うそッ……のおおーーうッ……お願いだからやめてぇ……」
「やめてじゃねーよ、ほーら、入口にチンポ当ててるだけで、イヤらしい肛門が吸い付いてくるじゃねーかw
ケツ穴ムズムズしてんだろ？　アナルホジったら気持ちイイんだろオラ！」
「はぁッ……でもっ・そんなおっきいの……無理っ・入らないよっ……」
「大丈夫だよホラ、当ててちょい押しただけで、肛門がチンコ飲み込んでくじゃねーかw　ほらドンドンめり込むぞ？
しかし良くほぐれたアナルしてやがんなw　アナニーしすぎの変態娘にお仕置きしてやるッ！」
「いやっ！　やめてお願ッ……あぁぁッ！！」
「ほーら全部入ったッ！　オレのデカチン簡単に飲み込んだじゃねーか……おーッ・締め付け気持ちイイッ……
チンポ好きのっ・いいケツ穴だなッ！　大丈夫、最初はゆっくりホジって……」
「いやぁッ・のおおおうッ……おッ♪　あッ♪　……ハァハァ……いやぁぁぁんッ♪」
「だんだん激しく……引っ掻き回してやるからなッ！　ほら全身ビクビク震わせて……チンチン気持ちイイんだろ？
尻の穴ホジられて気持ちイイんだろうがホラッ！」
「あッ・うそっ・こんなッ……あん♪　いイッ♪　お尻のあなぁッ♪　気持ち良イっッ♪」

「おら四つン這いになってケツ高く上げろ！　そ〜だホラッ！　」
「あぁッ・深ッ！　深くまで刺さるぅッ♪　この姿勢ッ……あん・あんッ・ヤバいイぃぃっ♪」
「可愛い鳴き声あげやがってw　快楽に負けてすっかり素直になったじゃねーかw　そうそう、もうあきらめて気持ち良くなる事だけ考えろ、な？」
「え？　あっ・あッ♪　あぁぁぁッ♪　うんッ……」
「よしよし良い子だ……おいテメェら！」
「ヘイ！」「へい！」「へい！」
「ほーら、部下のクローン達も気持ちよくしてやってくれよ……口開けろオラッ！」
「エッ！？　イヤっ！　やだぁんッ！」
「うるせーなw　オメェらかまわねぇからチンポ無理矢理突っ込んで、お口も犯してやれよ！」
「ヘイ！」「へい！」「へい！」
「やっ・だッ・ムグッ・んッ・んッ……オェェェッ！」
「オイオイ吐くなよw　ほらもっとツバ出してしゃぶって、横のチンコも手でシゴけ！」
「だってッ……んんッ・すごいニオイっ……」
「そいつら改良型のオレの複製だから、そのチンポの形もニオイもオレ様と同じ。つまりお前の尻穴を気持ち良くしてるチンポと同じなんだから、丁寧に扱えよ……オラッ！　オラ・オラッ！」
「はぁッ！　ダメっ・こんな最中にッ・お尻叩いたらぁッ・あんッ♪」
「おおッ・ケツ穴キツッ・尻叩く度ッ・キュッって・肛門締めやがってッ・この変態ッ！」
「だぁッ・てッ・こんな痛ッ・ひどい扱いッ・興奮しちゃうぅッ♪　お尻の穴もッ・ちんちんでホジられてっ・かゆくて気持ちよくてっ・あぁッ・ちんちん気持ちイイぃッ♪」
「肛門どんどん濡れてくるな……くっせー腸液でケツマンコにゅるにゅるして……このアナルすげぇ気持ちイイぞッ！　あーぁ、さっきまでシャンプーと香水のいい匂いさせてたのに、ケツ穴からくせぇ臭いさせて台無しだなw」
「やだぁッ・あんッ♪　そんなコト言っちゃ……いじわるぅッ・あんッ♪」
「あー？　意地悪じゃねぇよ、可愛い顔した生娘の、くっせぇ肛門のニオイで興奮するって、褒めてんだよおらッ！」
「いやっ・恥ずッ……でもっ・わっ・私もっ……んッ・むちゅッ……クサいチンチン興奮するぅっ♪　あっ・ダメっッ・もうイっちゃうッ♪」
「イイぞっ！　一緒にイッてケツ穴にたっぷりザーメンぶちまけてやるよッ！」
「違うのッ・おしっこッ・おシッコも漏れちゃいそおッ！」
「知るかよッ・小便漏らしながらッ・さっさとイっちまえこの変態ッ！」

『ジョロジョロッ……
プッシャアアアアアーーーーーーーッ！！』
「あぁッ♪　スゴッ・まだカラダっ・ビクビクしてッ♪
あぁッ・おケツの穴もッ・ザーメンいっぱいでっ・
熱っついぃッ♪」
「ほらクローンのザーメンも頭からタップリかけてもらえよッ！」
「あぁッ♪　びゅびゅって……クサくて熱いのッ・イッパイ来たっ♪」
あっ、ヤダまたオシッコ出ちゃうっ、あッ・やだっ・お尻に
いっぱい空気入ってたからッ・ザーメンと一緒にガス出そっッ……
いやぁっ・わたし女の子なのにッ・おなら出ちゃ……！！」
『シャシャッ！　……ぷすッ・ブブッ・
ぶりゅりゅりゅりゅーーーーッ！』
「おいおい！w
尻穴からザーメン噴き出しながら
屁もこきやがって……
とんだド変態女だなッ☆」

後書

☆カクガリ兄

ども、兄デス☆

さて、今回は飲み会でお友達になったゆめみさん
と組んだ、イラスト＆テキストスタイルの本です。

ゆめみさんの可愛らしい作画に、
僕の下品なテキストを乗っけることで、
またちょっと面白い遊びができるかなぁ、と。

冒頭のテキストは原作小説の形が特殊なので
これと同じくひと段落はTwitterの文字数制限で
基本改行ナシetc～の文体で制作したのですが
さすがにカラミもそのまま……というのは
色々無茶なので中止しましたw
もともとアニメーション版が元ネタだしね☆

ではまた次の機会に～。

☆ゆめみ

ドーモ、読者=サン。ゆめみです。
今回はカクガリ兄=サンのお誘いで描いた忍殺の
退廃的ウキヨエ本になります。

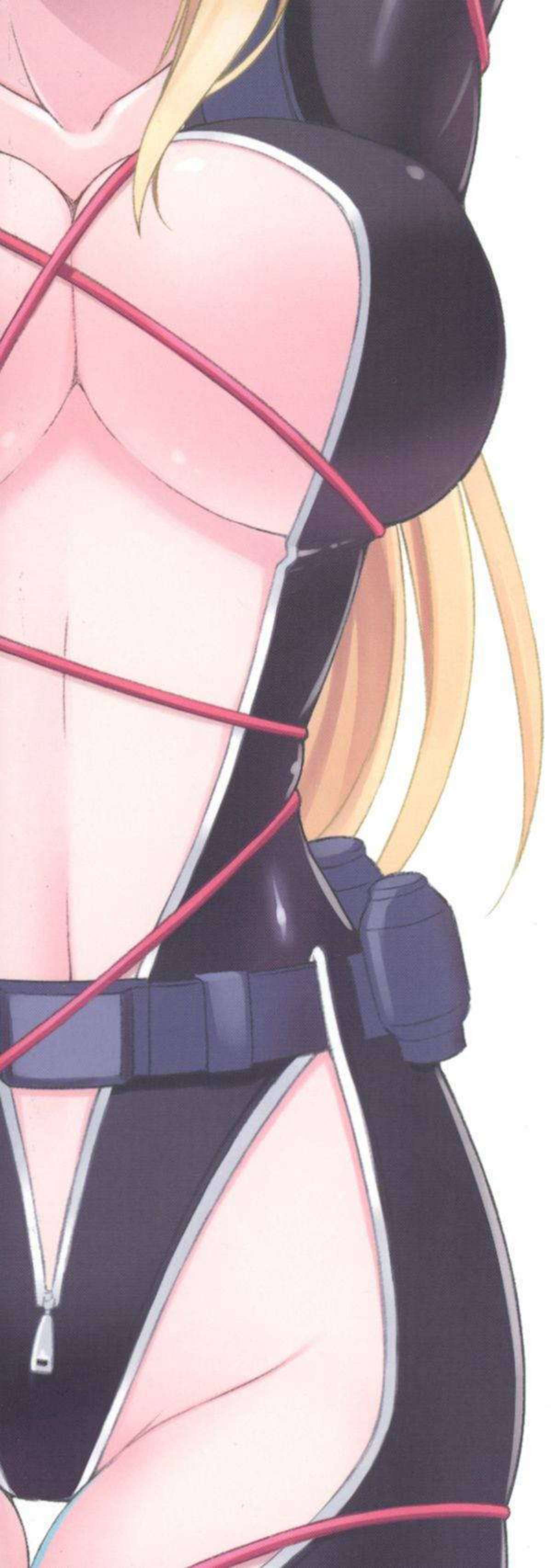
近頃新しい仕事を始めたのですが長い通勤時間に
ウシミツ残業も多く、新刊の頒布を半ば諦めていた
ところに天からの声が…ゴウランガ！
兄サンの持つワザマエで奥ゆかしきアトモスフィアな
本が出来上がりました。

とても楽しく作ることができたので
ミナサンにもお楽しみ頂けると幸いです。

それではミナサン、オタッシャデー！

奥付
誌名　ナンシー・リー
フロムウスイホン
作　ゆめみ
カクガリ兄
発行　ゆめざくら＋I.T.ジャイロ
発行日　2015/08/16
印刷　きょうゆう出版　様
連絡先　kyoukaisen0714@yahoo.co.jp

注　本誌に記載する全ての図版・文章を、許可なく
複製・転載・ネットで公開及びアップロードする事を禁じます



yumemi &
kakugari ani
present's